

SHOW HEY シネマールーム

★★★

ジュラシック・ワールド 炎の王国

2018年/アメリカ映画
配給：東宝東和/128分

2018 (平成30) 年8月11日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

Data

監督： J・A・バヨナ
製作総指揮： スティーブン・スピルバーグ
出演： クリス・プラット/ライ
ス・ダラス・ハワード/レイ
フ・スポール/ジャスティ
ス・スミス/ダニエラ・ピネ
ダ/ジェームズ・クロムウェ
ル/トビー・ジョーンズ/テ
ッド・レビン/ジェフ・ゴー
ルドブラム/B・D・ウオン

■■■ショートコメント■■■

◆前作のシリーズ第4作『ジュラシック・ワールド』では、恐竜たちを見世物にしたテーマパークが興味深かったが、大規模な気候変動が相次ぐ昨今、もしテーマパークにされている南米沖にあるイスラ・ヌブラル島そのものが地震や津波に遭ったり、火山の噴火に見舞われたりしたら・・・？

さまざまな種類の大量の恐竜を現代に蘇らせたのは高度な遺伝子技術の進歩によるものだが、それは本来の意味での進歩？それとも、神の領域に足をつっこんだ不埒なもの・・・？

◆現在、ロックウッド財団の運営責任者になっているイーライ・ミルズ（レイフ・スポール）は、財団設立者であるベンジャミン・ロックウッド（ジェームズ・クロムウェル）や、その孫娘のメイジー（イザベラ・サーモン）にも優しく、一見「善意の塊」のような男だが、実はこれが食わせ者。

何とかイスラ・ヌブラル島の恐竜たちを救い出したいと元ジュラシックワールドの経営者にして、現在は恐竜保護グループの代表である女性クレア・ディアリング（ダラス・ハワード）に申し出たため、クレアはこれを快諾。ここからいよいよシリーズ第6作の本格的ストーリーが進んでいくことになったが・・・。

◆クレアは、半隠居生活を送っている元恋人で、前作でも大活躍した動物行動学者のオーウェン・グレイディ（クリス・プラット）を誘って、イスラ・ヌブラル島に行くことに。同行するのは、恐竜保護団体のエンジニアであるフランクリン・ウェブ（ジャスティス・スミス）と、獣医のジア・ロドリゲス（ダニエラ・ピネダ）だ。この“オーウェン様ご一行”は、イスラ・ヌブラル島でベースキャンプを張っているロックウッド財団が雇っている傭兵ケン・ウィートリー（テッド・レビン）らの協力を得て、無事、最も人間の言うことを聞くラプトルである「ブルー」と出会い、オーウェンは旧交を温めながら（？）「ブルー」に島からの脱出計画を語りかけていたが、その最中に何とブルーには麻酔銃が撃ち込

まれたから、アレレ・・・。

イーライと傭兵たちの目的は、可能な限りイスラ・ヌブラル島から恐竜たちを連れ去り、高値で売りさばくことだったわけだ。そんな中、イスラ・ヌブラル島は本格的な噴火を始めたから、本作前半のクライマックスとなる大パニックが……。オーウェンたち4人は何とかケン・ウィートリー率いる船団の中に隠れて乗り込むことができたが、さあ後半の展開は？

◆シリーズ第4作目の前作同様、シリーズ第5作目となる本作も結構面白いが、なぜかあまり真面目に観ようとも思わないし、評論を書こうとも思わない。それは結局、大層なカネを使って作る、この手のハリウッド型娯楽超大作に観飽きてきたためだろう。結構面白い映画だから、時間つぶしの娯楽には最適だが、それ以上何も残らない。そんな感じが強すぎるため、これ以上評論を書く気にならず、これにてダウン。以上。

2018（平成30）年8月15日記